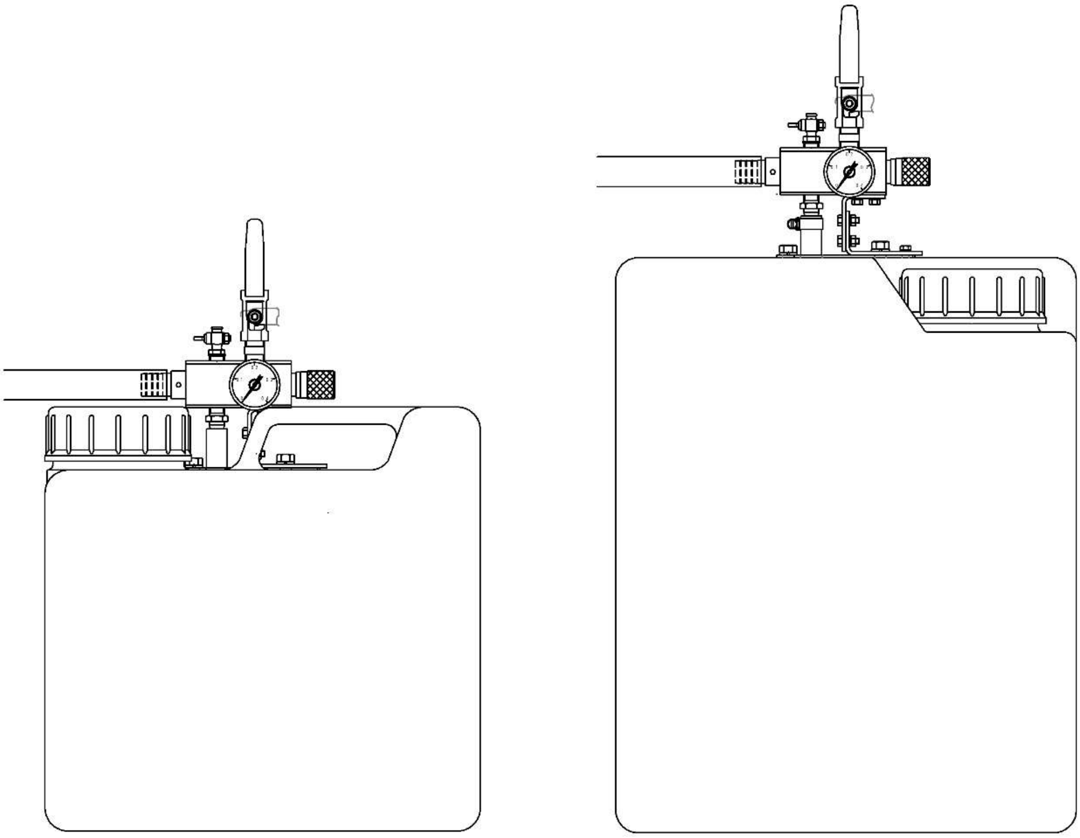
自動希釈バルブ　KS-ADV2P / ADV2P-60L

取扱説明書



目次

各部名称……2

設置方法……2

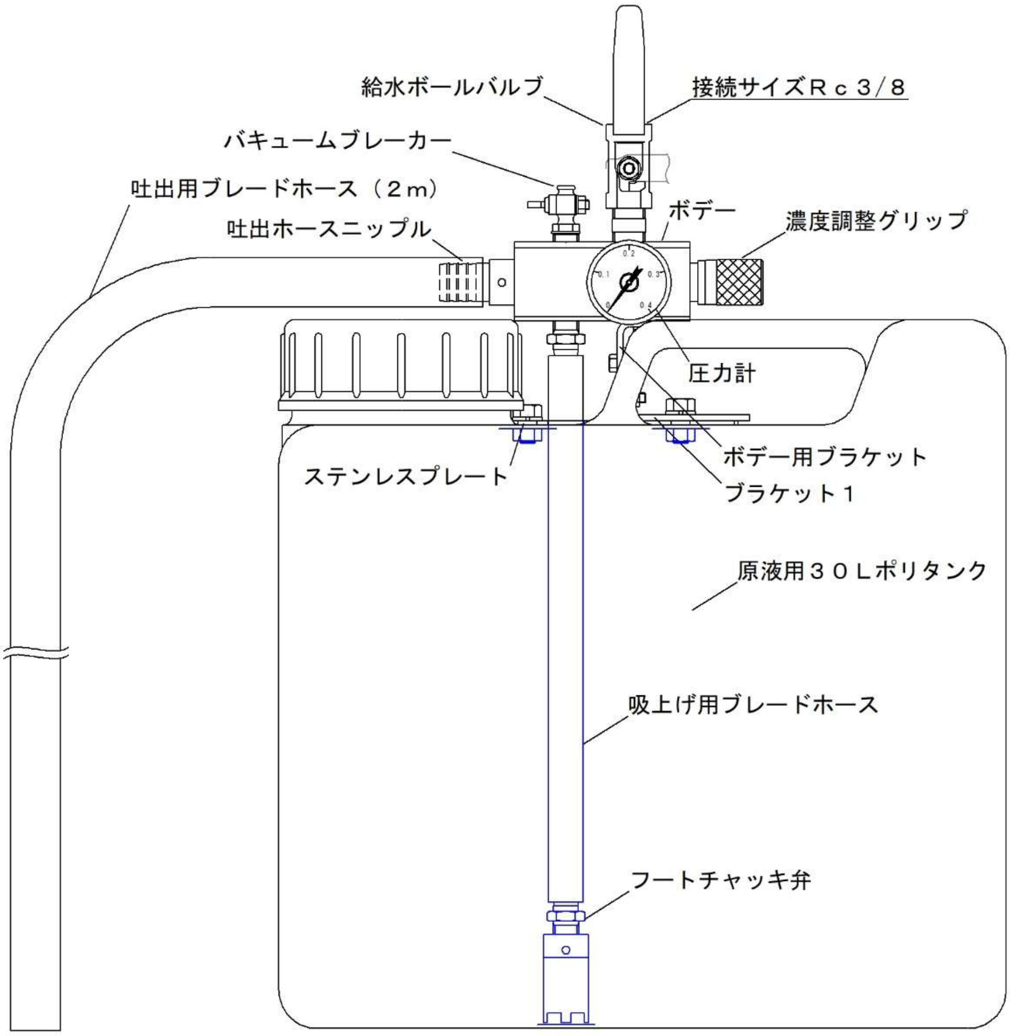
取り付け参考図……3

操作のしかた（最初に一読してから作業してください）……3

トラブルシューティング……4

株式会社ケイエステック

各部名称



【注意】
タンクが空の場合は、少し傾けるだけで転倒しますので取扱いには十分ご注意ください。本体を保護しているクッション材は原液を入れてから外してください。

設置方法

①本体を箱から取り出す際は、転倒に十分ご注意ください。
②タンクキャップを開け希釈する原液を１０Ｌ以上入れてください。
③本体左からでている吐出用ホースを止めているテープを外してください。
④クッション材を外し、給水ボールバルブに水配管のホースをつないでください。
＊吐出ホースの先には配管やバルブ等を付けず、そのままタンクに給液してください。
　配管やバルブを接続すると希釈が正常に行われず、水が吸い上げホースに逆流します。

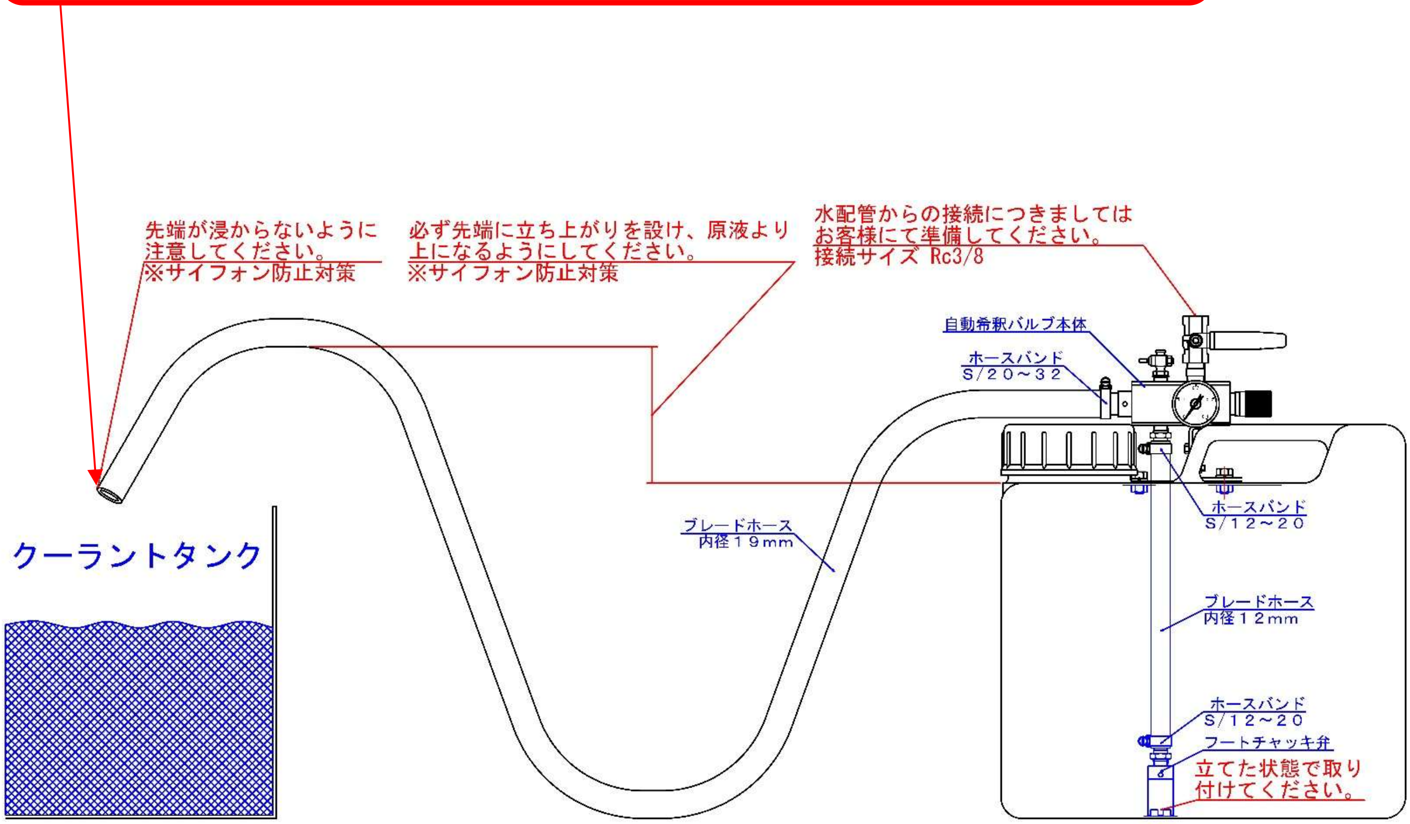
[注意事項]
・ホース類は折れ曲がらないようにしてください。また、定期的に折れがないかチェックしてください。
・密閉タンクには使用しないでください。タンクが一杯になり逆流する可能性があります。
・希釈濃度につきましては、定期的にチェックすることをお勧めします。
・注意事項に記載が無いような内容でも、一般常識の範囲内でお取り扱いください。

※上記の注意事項をお守りいただかないと、重大な被害を及ぼす場合があります。

取り付け参考図

・ホース類は折れ曲がらないようにセットしてください。
・自動希釈バルブへ接続する水配管はお客様にてご準備ください。

※ホースの先端には、配管やコック等を付けずにそのまま使用してください。
ホースを延長したりしないでください。



操作のしかた（最初に一読してから作業してください）

1．給水ボールバルブを全開にしてください。
2．濃度調整グリップを左（反時計回転）に 2~3 回まわし開けます。
3．供給圧力が 0.1MPa 以上で安定していることを確認し、その圧力値を設定圧として記録してください。
4．濃度調整グリップの操作は、ゲージの数字が大きくなるほど、原液の吸上げ量は多くなります。
濃度計等で計測しながら、適正な濃度になるようにダイヤル設定してください。以後は、給水栓を開くだけで、適切な希釈液を作ることが出来ます。設定圧が変動すると濃度が変わりますので、供給圧力は一定になるようにしてください。
5．作業者が吐出ホースを手に持って使用する場合は、使用後吐出ホース内の希釈液を空にし、吐出ホース先端を原液より高い位置に固定してください。
吐出ホースをクーラントタンクに固定して使用する場合は、吐出ホース先端が液面に浸からないようにし吐出ホース先端に立ち上がりを設けて使用してください。（P３　取り付け参考図参照）

自動希釈バルブが高い位置にあって、作動を停止しても液が流れ出す場合は、バキュームブレーカーを開いて、原液の吸上げを停止させてください。また自動希釈バルブの位置を低いところに変更してください。

6．万一、吐出側がつまった時は給水ボールバルブを閉め、バキュームブレーカーを開いてから復旧してください。

7．原液タンクは空になる前に早めに給油してください。タンクには常に液の残量が５Ｌ以上あるように管理してください。

トラブルシューティング

希釈がうまくいかない場合は以下の内容をご確認ください。

【不具合内容】
濃度調整グリップが回らない。

① 濃度調整グリップをきつく締めすぎていませんか？メモリ値０以下に回さないでください。
② 濃度調整グリップがどうしても回らない場合は、一旦吐出ホースニップル（外形図及び部品図参照）を反時計回りに少し回して濃度調整グリップを回してみてください。
③ 濃度調整グリップが回りましたら、吐出ホースニップルを時計回りに締め付けてください。

【不具合内容】
希釈できない。濃度調整グリップを開いても濃度があがらない。水が原液タンクに逆流する。バルブを閉じても原液が希釈液タンクの方へ勝手に流れる。

① 吐出側のホースを延長したりバルブや配管をつけたりしていませんか？吐出側のホースはそのままの状態でご使用ください。
② バキュームブレーカーが開いていませんか？コックが横になっている状態が閉じている状態です。
③ 通常希釈バルブを全開にした状態で吐出側のホースからは１８L/分の希釈液が出ますが、極端に量が少なくなっていませんか？本体内にゴミが詰まった場合、希釈液の出る量が減りメーターの値が通常より高くなります。
④ 吸上げホースを延長していませんか？吸上げホースが長くなるほど希釈能力が下がります。
⑤ 吸上げホースの先にあるフートチャッキ弁が詰まっていませんか？フートチャッキ弁の先から覗くと金属の玉が見えます。細いドライバー等で玉を押し、球が動くことを確認してください。
⑥ 現場の気温が低くなっていませんか？気温が下がると原液の油の粘度が上がるため、吸い上げる量が少なくなっていきます。
⑦ 使用する原液の動粘度をご確認ください。動粘度が高い液だと希釈濃度が下がります。
使用する環境にもよりますが、動粘度 150 ㎟/S で MAX 濃度が約１０%程度です。
⑧ 吐出側のホースの先が希釈液タンクの液面に浸かっていませんか？吐出側のホースの先が液面に浸からないようにしてください。